

カープが縁で深まる絆 宮崎県から日南市訪問団が来庄

REPORT 4

日南市の訪問団が1月21日、庄原市を訪れ、庄原市カープ応援隊事務局と交流しました。

日南市と宮崎県の観光関係者からなる訪問団は、1月22日に開催された都道府県対抗ひろしま男子駅伝に合わせ、カープ日南キャンプ50周年記念のPRを行うために広島を訪れたもので、これを機会に日ごろからカープの応援を通して交流のある庄原市を訪問しました。



▲ゆめさくらで記念撮影

この日は、庄原特産の食材を用いたメニューで昼食交流会を行った

後、国営備北丘陵公園と市役所を訪問しました。公園では、開催中の「冬咲きぼたん展」や、庄原のふるさとの味「はぶそう茶」を楽しみました。

日南市サンフレッシュレディーの榎木田恵里奈さんは「庄原はすごく良いところ。また来たい!」と笑顔で話し、庄原市カープ応援隊実行委員会の塩本誠二委員長は「2月の日南キャンプ訪問を前に一段と絆が深まった。今年もカープの勝利を願いながらそれぞれの市を盛り上げていく思いをひとつにできた」と喜んでいました。



▲日南市からお土産が贈呈

違法薬物は「ダメ・ゼッタイ!」 美古登小学校で薬物乱用防止教室

REPORT 5

薬物の乱用防止への関心や認識を高めることなどを目的にした「薬物乱用防止教室」が1月16日、美古登小学校の5・6年生22人を対象に開催されました。

当日は、西城広島ライオンズクラブ3人と庄原警察署西城交番長が講師となり、違法な薬物の中毒性や副作用などの危険性を説明し、実際の事例をもとにした寸劇で、薬物の恐ろしさを伝えました。講師からの「正しい知識を持ち、誘われても断る勇気を持つことが必要」という投げかけに、子どもたちも真剣な表情で聞き入っていました。

児童からは「乱用したら元に戻れないとわかった」「誘われてもやらない」などといった感想が聞かれ「薬物はダメ・ゼッタイ!」との認識を高めていました。



▲釜野祐二西城交番長の話に聞き入る児童

外国人が日本語学習の成果を発表 日本語スピーチコンテスト

REPORT 6



▲発表する李さん

しょうばら国際交流協会主催の日本語学習者による日本語スピーチコンテストが2月12日、庄原市保健センターで開催されました。

第10回目を迎えるこのコンテストに、県北部に在住の外国人10人が出場。100人を超える聴衆が見守る中、日ごろの日本語学習の成果を発表しました。

発表者は、「日本に来て感じたこと」「母国や家族への想い」といったテーマをそれぞれ設定し、5分以内でスピーチを行いました。

金賞を受賞した中国出身の李林蓉さん(安芸高田市在住)は、目標としていた日本語検定に合格することができた経験を通じ、「何事にも挑戦することが大切」と語りかけていました。そのほかの発表者も「緊張したけど楽しかった。もっと日本語を勉強していきたい」とさらなる意欲を見せていました。



▲発表者全員で記念撮影

気持ち新たに書初めと絵馬づくり 比和放課後児童クラブ

REPORT 1

比和放課後児童クラブの子どもたち18人が1月4日、年頭の書き初めと絵馬づくりを行いました。

書道講師でもある同クラブ指導員の谷口直美さんが、書道の基本となる止め方やはらい方などをやさしく指導。子どもたちは真剣な表情で半紙に向い、題目の「春光」「希望」「正月」など力強い作品を完成させました。

また、絵馬づくりでは、一人一人が今年の抱負を考え、「漢字をていねいに書く」「算数をがんばる」「バレーでサーブを決める」などと書き込み、折り紙で飾り絵馬を完成。

出来上がった書き初めと絵馬は、クラブ室内に飾り付け、みんな笑顔で気持ちを新たにしていました。



▲書き初めに取り組む子どもたち

雪融けとともに準備 ためしげ福寿草まつり

REPORT 2

今年で6回目となる「ためしげ福寿草まつり」を開催する、ためしげ福寿草まつり実行委員会が、3月上旬からの



▲休憩所へ昨年の開花写真を展示する実行委員会メンバー

一般公開に向けて本格的な準備を始めました。

同実行委員会は、東城町久代為重地区に自生する福寿草を求めて来場する観光客により楽し

んでもらおうと、毎年遊歩道の整備や案内看板の設置、休憩所への写真展示などを行っています。

回を重ねるごとに、九州・京阪神方面からの来場者が増えており、準備するメンバーも力が入ります。

自生しているのは『ミチノクフクジュソウ』という種類で、斜面いっぱいを黄色に染める姿は3月中旬から1カ月程度楽しめ、各種バザーや催しが行われる「ためしげ福寿草まつり」は3月24日(土)・25日(日)の両日、福寿草自生地周辺特設会場で開催される予定です。

詳しくは、ためしげ福寿草まつり実行委員会事務局(☎08477-2-2784)まで。

手作りとうろう菓子完成! 総領小・中学生がとうろう菓子づくり体験

REPORT 3

総領中学校2年生が2月3日、総領小学校3年生が2月6日、「とうろう菓子づくり」を体験しました。

とうろう菓子は、ひな祭り用の花の代用として飾られた地方独自の飾りです。

子どもたちは、総領町稲草西自治会老人部の皆さんの指導を受けながら、樽、提灯、まりなどをかたどった枠に赤や黄に着色したもちを入れて焼き、はみ出した部分を丁寧に切り取るなどして、柳や桃の枝に飾り付けました。

体験した中学生は「すごくわかりやすく教えてくださったので、楽しく作業ができた」「伝統を守りたいと思った」と話していました。



▲型枠で焼く作業

▲紙ひもを付け組み合わせて完成

文化財を火災から守るために 市内各地で火災想定訓練

 **REPORT 7**

文化財防火デーに合わせた火災想定訓練が1月21～29日の間、市内各地域で行われました。

これは、昭和24年1月26日に国宝法隆寺金堂の壁面が焼損したことを機に、同日が文化財防火デーと定められ、この日を中心に全国各地で文化財の防火運動が展開されています。

総領地域では1月21日、三次消防署甲奴出張所、庄原市消防団総領方面隊が参加し、放水訓練を実施。団員たちは、総領郷土資料館で火災が発生したという想

定のもと、寒空の中白い息を吐きながら真剣に取り組んでいました。

市危機管理課の清水孝清課長は「文化財を火災などから守り後世に承継するためには、こういった訓練がとても大切。地域ぐるみで取り組んでほしい」と呼びかけています。



▲放水訓練をする消防団員

高野の冬をとことん楽しむ 大鬼谷オートキャンプ場で雪遊び体験

 **REPORT 8**

高野の大鬼谷オートキャンプ場で1月28日・29日の2日間、体験イベント「かまくら体験と雪あそびin大鬼谷」が開催されました。

西日本では珍しい雪中キャンプができる大鬼谷オートキャンプ場では、冬をおもいっきり楽しんでもらおうと雪を使った体験イベントを毎年開催しています。

このイベントに広島市や岡山県などから13家族59人が参加しました。

初日は、ジャンボかまくら作りやソリ遊び、スノーランタン作りなどを体験。2日目はスポーツ雪合戦などを楽しみました。

スノーランタン作りでは、一家族ごとに簡単な道具と雪を使って、縦横20センチほどの雪のランタンを約200個作成。スタッフの誘導でロウソクを立てながら、

サイト内に等間隔に並べていきました。点灯するとやわらかい明かりが浮かび上がり、参加者はその幻想的な光に魅せられていました。

支配人の須安道秀さんは「とても好評をいただいている。さらに定着するように来年以降も開催していきたい」と話していました。



▲スノーランタンが辺りをやさしく照らす

▲かまくらの中で楽しく食事をとる参加者

元スキー場で雪遊びを楽しむ 口和でスノーフェスタが開催

 **REPORT 9**

「スノーフェスタin口和」が1月29日、金尾原元スキー場で開催され、市内外から約150人が参加しました。

このイベントは、地元の宮内自治会を中心に口和町観光交流協会などが組織する実行委員会が主催するもので、雪に楽しむメニューを企画し毎年開催しています。

雪に恵まれた今回は、かまくら作りやそりすべりジャンプ大会、雪中宝探しなどが行われました。

そりすべりジャンプ大会では、子どもたちが勢いよくそりに乗り込み、記録を狙って約50mの斜面に設けられた大きなジャンプ台にチャレンジ。きれいにジャンプを決める子、コースから外れて転び雪まみれになる子など、雪

の冷たさも忘れてみんな歓声を上げ楽しんでいました。

昼食には猪肉入りのうどん、おでん、おやつタイムにはぜんざいが参加者に振る舞われ、冷えた体を温めました。

町外から参加者した方は「雪道は怖かったけど、かまくら作りやいろんな雪の体験できてとても楽しかった。また来年も家族で参加したい」と声を弾ませていました。



▲そりジャンプを楽しむ親子

▲完成したかまくら